

薬事委員会

委員長代行 加藤 万事

1. 特徴

院内各層の代表者が集まり、直前2ヶ月間に薬局へ要望された新規採用薬、臨時採用薬、採用停止薬の内容を協議した上で承認することにより病院内で使用される薬剤の内容について科を超えて情報を共有しあっています。また、近年の国民医療費の有効な活用を意識して、後発医薬品の積極的採用を進めています。

2. 2009年度活動実績

偶数月の第一金曜日午後4時から開催 年6回
新規採用薬 24件
臨時採用薬 10件
採用停止薬 11件
後発医薬品への切り替え 11件

3. 2010年度目標

近年の分子標的薬の進歩は目覚ましいものがありますが、これらの薬価は非常に高価であり、バランスを勘案せずに新規の治療法ばかりに向かえば薬剤費の高騰は免れえません。患者さんの費用負担も考慮し、主治医に対して第三者としての公正な立場から意見の述べ合える委員会として機能してゆきます。また、安全で効果のある後発医薬品をしっかりと見出して採用してゆくことで後発医薬品の使用比率をさらに増加させてゆくことが必要とされており、積極的に取り組んで参ります。

N S T (Nutrition Support Team) 委員会

委員長 城 浩介

1. NST 委員会の特徴、役割

- ・ 栄養評価を行って、入院症例が栄養障害を有しているか否か、栄養管理が必要か否かを判定する。
- ・ 適切な栄養管理がなされているかをチェックする。
- ・ 最もふさわしい栄養管理法を指導、提言する。
- ・ 栄養管理に伴う合併症の予防に努め、早期発見、治療を行う。
- ・ 栄養管理上の問題点、コンサルテーションに答える。
- ・ 栄養管理に関わる資材の無駄を省く。
- ・ 早期退院や社会復帰を助ける。
- ・ 新しい知識の啓蒙、普及に努める。

2. 2009 年活動実績

NST 委員会：毎月第 1 木曜日 16：30～

NST ランチタイムミーティング（症例検討会）：隔月第 4 木曜日 12：30～

NST 回診：毎週月曜日、金曜日（週 2 回）15：30～

NST 勉強会：毎月第 3 木曜日 17：30～

- ・ 入院時栄養アセスメント件数・・・10277 件／年
 - ・ NST 回診回数・・・100 回／年
 - ・ 回診延べ患者数・・・814 人／年
 - ・ NST 勉強会回数・・・11 回／年
- （内容）1 月：嚥下食・摂食訓練について
2 月・3 月：褥瘡について
4 月・5 月：口腔ケアの流れ
6 月・7 月：NST について
9 月・10 月：亜鉛の有用性について
11 月・12 月：半固形化経腸栄養・高齢者の栄養管理

3. 2010 年目標

- ・ NST 回診カルテの電子化
- ・ 症例検討会の充実
- ・ NST 活動の啓蒙を図り、多職種協同を目指す。

栄養委員会

委員長 城 浩介

1. 栄養委員会の特徴

栄養委員会は、給食委託会社（日本ゼネラルフード株式会社）とともに患者食・職員食におけるサービス向上を目標に活動しています。

患者食では、行事食の充実、適時適温、食品の安全などに配慮しています。また、職員食では保健所からの指導もあり、職員全員の健康に配慮（カロリー表示）しています。

2. 2009年活動実績

栄養委員会：隔月第3月曜日 16：30～（年6回）

献立検討会：週1回（栄養科と委託給食会社のみ、リハビリ病院と合同）

患者食アンケート：年2回（2月、10月）

職員食アンケート：年1回（10月）

患者食の栄養成分表示（デイルーム）の開始

非常食の見直し（1日3食・3日分）

食器新規購入分より高齢者向け食器を導入

3. 2010年目標

- ・高齢者向け自助食器の継続購入
- ・献立内容の見直し（特にやわらか常食）

院内感染対策委員会

委員長 磯部 智

毎月1回の委員会を定期的開催。

本委員会の内容は、

1. 当院における菌の分離状況総検出件数、特に難治性細菌検出の頻度と前月との比較。主たる菌は、MRSA、腸球菌、セラチア、病原性大腸菌である。
2. MRSA 陽性入院患者数。
3. MRSA 入院治療患者の抗生剤処方状況。
4. 結核を含めた抗酸菌の検出頻度。
5. その他 開催月に話題となった議題、問題点、トピックスなど。

以上5項目について、約30分間にわたって議論する会である。

一年を通じて、検出起因菌件数は、昨年度と比較して低く、11月～1月、7月にピークを迎えた。幸いにして、MRSAなどの難治性細菌による院内感染波及は認められず、登院における対策が十分になされた成果であると確信する。

今年の大きな議題の中心は、新型インフルエンザの感染の波及、及びその予防法（発熱外来をどうするかなど含めた検討）についてであった。2009年6月に当院で名古屋市第2例目を経験し（当事者は偶然私であった）、以降は全国的な感染者数の増加に伴い、当院を受診された感染者数は急速に増加した。年末までには、日本の感染者数約1000万人、インフルエンザに伴う合併症による死亡者数が約100例となった。日本での総感染者数は2500～3000万人に上ると推定された。10歳以下の小児の脳症、呼吸器感染症による死亡と、合併症を有する成人の呼吸器感染症による死亡が問題となった。当院では、特に死亡患者は確認されず、スタッフの感染も報告されたものの、大事には至らずであった。この新型インフルエンザのワクチンの普及は大幅に遅れた。現在では、濃厚接触者になりうる病院の職員、妊婦、小児および合併症をもつ高齢者に限って摂取が可能な状態であり、一般の外来患者の希望者を網羅するには、まだまだ大幅な不足が改善されていない状態である。新型の流行に伴い、従来型インフルエンザワクチンの摂取希望者が大幅に増加し、こちらも需要が供給に追いつかない状態となった。

針刺し事故は、数名の医療従事者より報告がされ、幸いにして、その後の感染被曝は報告されず。

本年（2010年）度も、インフルエンザの議題は継続すると思われる。本年度も同様な形式で行っていく方針である。

図書委員会

委員長 山本 由紀子

1. 特徴

各部所から代表者が集まり、図書・雑誌に関する予算の検討および購入希望図書・雑誌の承認を行っています。

2. 2009 年活動実績

これまで二ヶ月に一度であった委員会を四ヶ月に一度とし、上記内容の議題について検討してきました。会議の回数を減らす事で委員の一般業務に対する負担を軽減しながら、書面での議題の連絡・検討を行い、委員会の業務を滞りなく行えるよう工夫しております。

2009年度の図書に関する予算は500万円であり、その範囲内での図書購入を進めています。

3. 2010 年目標

本年度も良書の購入および適切な管理を行っていきたいと考えております。

院内医療安全対策委員会・ガス委員会

委員長 後藤 泰浩

1. 特徴

病院の安全管理を担う院内システムの一環として、平成13年（2001年）4月前身の医療事故対策委員会として発足。平成14年10月現在の院内医療安全対策委員会として月一回の委員会・年数回の講演会・講習会を通じて活動を続けています。オンラインでのヒヤリハット報告を中心に毎月40-80件のレポートを頂き、最新の医療安全対策の動向も検討するとともに具体的な安全対策に結びつくよう努めています。

ガス委員会は、年2回定例委員会と要事に開かれ医療ガス（酸素、圧縮空気、吸引等）の配管サプライ管理をしています。

2. 2009年活動実績

3月 ホルマリンの扱いにつき改善検討

3月 職員向け安全講習

5-7月 新型インフルエンザ流行にあたり医療安全でも検討

8月 サクシン→スクサメトニウム改名の報知

10月 自己注射針の回収廃棄にて誤針事故例 継続して回収体制の改善を企画

3. 2010年目標

安全対策専従者を中心に活動。患者所持薬管理・薬剤ハンドリングの課題・針刺し事故・転倒など具体的な対策の実現を進めます。電子カルテ化・病院システムの改善にともない、新たな問題の発生を予見、防止にも目を向けていきます。

褥瘡対策委員会

委員長 野尻 万紀子

1. 特徴

近年、高齢者の増加に伴い褥瘡の予防・治療の重要性が強調されるようになり2002年に褥瘡対策未実施減算が導入されました。また、今日では、褥瘡の発生要因(身体的要因・局所的要因)が明確にされたこともあり、対症療法から原因排除療法へと治療方法も進歩し、近年は湿潤環境を保つ moist wound healing に加え創傷治癒を阻害する因子を取り除き治癒環境を整える治療・ケアを目的とする Wound Bed Preparation (WBP)が重要視されています。当院ではこうした取り組みを充実させ、NSTと連携し入院患者様の褥瘡の予防、早期発見、早期治癒に取り組んでいます。

2. 2009 年活動実績

2008年よりNST委員会と連携し、看護部だけではなく医師、栄養師、薬剤師、リハビリ等がチームで褥瘡対策にあたっています。

褥瘡対策 : 褥瘡発生患者様に対してケアプランを立て、対策実施を行う。

褥瘡回診 : 毎月第1・3月曜日に各病棟の回診を行い、処置方法の指導、電子カルテによる経時的評価、体圧分散寝具のチェックの実施。

委員会の開催: 毎月第1木曜日にNST合同委員会の中で褥瘡の発生状況報告、症例検討、ケアプランの見直し。また、新規の薬剤、創傷被覆剤についての勉強会を実施。

教育活動: 入院患者様全員の褥瘡予防、スキンアセスメント、褥瘡評価が行えるようスタッフへの教育。定期的な勉強会。褥瘡セミナー研究会への参加。

3. 2010 年目標

褥瘡に対する取り組みを充実させ治癒率を上げる。

褥瘡院内新規発生0(ゼロ)を目指し取り組む。

看護スタッフ(新人看護師を含む)で入院患者様全員の褥瘡リスクアセスメントを実施、評価ができるよう教育活動を行い、さらなるレベルアップを図る。

医療情報委員会

委員長 久野 佳也夫

1. 特徴

種々の診療に関わる情報を円滑に伝達するシステムを検討・改善するための委員会です。ほぼ全ての部署から委員の出席をお願いするため不定期的な開催となっています。

2. 2009年活動実績

医事課の医療情報委員を中心に医療情報室を設置して頂き、実務のほとんど全てをお願いしました。

3. 2010年目標

当面は医療情報室の活動をお手伝いする必要のある場合に開催する予定です。

診療記録委員会

委員長 久野 佳也夫

1. 特徴

診療記録がもれなく正確に記載されていることを定期的を確認し、必要があれば対策をこうじるための委員会です。

2. 2009年活動実績

医療情報全体の管理と重なる部分が大きかったために医療情報委員会と同時に施行してきましたが、医療情報室の設置とともに医局会の際に開催するように変更しました。

3. 2010年目標

今後も定期的に診療記録充実のための活動を行って参りたいと考えています。

倫理委員会

委員長 久野 佳也夫

1. 特徴

病院もしくは職員が行う研究・医療行為の倫理的側面に関する院長からの死悶に対して審議を行う委員会です。審議内容の性質上不定期の開催となっています。

2. 2009 年活動実績

書面での審査を含めて数件でしたが、迅速な審査を重ねています。

3. 2010 年目標

書面審査を活用して今後も随時迅速な審査を目指します。

治験審査委員会

委員長 久野 佳也夫

1. 特徴

原則として企業から依頼のあった治験の実施に関する院長からの諮問に基づいて、当院での受け入れ体制に無理がないかなどの問題点について審議する委員会です。3名の院外委員も委嘱し、厚生労働省の規定する院外事務局を依頼して運営しています。

2. 2009 年活動実績

偶数月の第一金曜日、16時30分より定例会を開催しています。
本年は臨時会を含めて7回の委員会を開催、7本の治験に対して延べ45回の審査を行いました。

3. 2010 年目標

安全な治験をスムーズに施行する力になれるよう努力して参ります。

手術室運営委員会

委員長 坪井 博

1. 特徴

手術室の適正な運営及び安全な管理体制の確立を図る為に各委員による連絡会を行い、衛生管理、備品内容、一般運営、問題点などの事項を審議して安全かつ適正な運営を図る委員会である。

2. 2009 年活動実績

- ① 2008年12月6・7日の細菌検査結果報告
- ② 2008年度の手術室活動件数の報告
全体数の増加、全身麻酔（麻酔科管理含め）の増加、緊急手術の増加
- ③ 麻酔科手術優先枠の再確認
- ④ 手術室モニターの設置（1台）
- ⑤ 麻酔科常勤医の増員予定（4月より1名）
- ⑥ 病理検査伝票の取り扱いの件
- ⑦ DPC 導入に向けて電子カルテ導入後の手術記事保管方法
- ⑧ DPC 対象患者の手術関連に関する PC 入力の説明
- ⑨ 11月1日より麻酔科手術優先枠の増枠（麻酔科常勤医1名増員）になる為の希望科検討

3. 2010 年目標

電子カルテ化に伴う手術室支援システムを立ち上げる。
術前管理（手術予約、術前評価）術中麻酔・看護記録管理、

サービス向上委員会

委員長代行 川崎 富男

1. 特徴

当院では「患者様中心の医療」の病院理念のもと、病院内で過ごす時間を少しでも快適に過ごして頂くようアメニティ、接遇の両面で改善を図っております。

特に、患者様のご要望、ご意見を極力反映すべく、各種のアンケートを定期的実施し、毎月の委員会で改善策を検討し、実施しております。

また、各層の職員研修に接遇のカリキュラムを組み込み職員の好感度の向上に努めています。

2. 2009年活動実績

「皆様の声」、アンケート回収数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
外来	4	4	3	5	2	2	5	3	6	4	2	40
入院	38	28	22	21	19	21	23	21	18	21	20	252
健診センター	—	—	—	126	187	237	296	184	187	231	212	1660
合計	42	32	25	152	208	260	324	208	211	256	234	1952

「皆様の声」、アンケートに寄せられた主なご意見と改善内容

部署	ご意見	改善内容
外来・病棟	医師の休診予定もホームページに載せてほしい。	「診療休診カレンダー」を作成しホームページに掲載した。
	南館8F洗濯機を使う時小銭がなくて困った。両替機を置いてほしい。	洗濯機・乾燥機を新しくし、テレビカードで利用できるようにした。
	待ち時間が長いので週刊誌や新聞をおいてほしい。	雑誌を増やし、院内各部署でローテーションをする。新聞は当日分をおくことができないので実施しない。
健診センター	検査服の紐がほどけ易い。	検査着にマジックテープを縫付け、前がはだけないようにした。
	健診センターの場所が分かりづらい。案内板がほしい。	正面玄関及び西側通用口に健診センターの案内看板を設置した。
	待合は男女別の方が良いです。	女性更衣室の隣に「女性専用待合室」を設けアロマや音楽で癒しの空間を演出。

3. 2010年の目標

- ① 患者様アンケートの継続とご要望への回答、実現。
- ② 全体および各層別の接遇研修の実施。
- ③ 外来待ち時間の短縮への取り組み。
- ④ 分かりやすい院内掲示や手順書の策定。